

令和4年度 接続期カリキュラム研究推進地区 活動報告

初音ヶ丘地区

横浜市立初音が丘小学校

境木保育園

初音丘幼稚園

推進テーマ

育ちと学びをつなぐ ～幼保小の架け橋プログラムを踏まえて～

別添1

幼保小の架け橋プログラムの実施に 向けての手引き（初版）



～幼保小の架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点～

【幼保小の架け橋プログラムの実施に関する視点】

- 幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
- 施設類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう
- 園・学校等外との連携については、書類上はしっかりとまとめられているが具体的な取組が進まないという批判も聞かれます。実質的な話し合いや実践を重視し、そうした具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすい書類を作成していくという意識で取り組みましょう
- ICTやオンライン等の活用により、先生の負担軽減や時間の効率的使用も図りつつ、効果的に取り組めるようにしましょう
- 全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
- 形式的な取組とならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう

今年度の推進内容

- ①「10の姿」を手掛かりとした「日案」の作成
- ②児童支援専任と築くスタートカリキュラム
- ③園との持続的な交流と子どもの学び
- ④職員間の関係の構築

①「10の姿」を手掛かりとした「日案」の作成

4月14日(水)☞

☞整理しよう。☞

☞給食の先生(係)と手話でお話しよう☞

ぐんぐんタイム
ひらがなとなかよし。「何が入るかなゲーム」をしよう。☞

わくわくタイム
春を探そう。☞
見付けたことを発表しよう。☞

ぐんぐんタイム
給食の準備をしよう。☞

13時15分頃☞

給食袋☞
国語の教科書☞

日案

4月14日(水) 6日目

<朝>
○保健調査票、健康手帳の切り忘れの回収

<なかよしタイム>
○健康観察(元気調べ)
・「昨日勉強した返事の仕方まで」とうながす
※入学式の日に写真を撮っていたらテレビに映すのもあり

○お話ししよう
「好きな動物」「好きな色」など

○読み聞かせ
「はるがきた」ジーン・ジョン
「はなをくくん」ルース・クラウス
「はるって、どんなもの？」あさのますみ
「たんぼはたんぼぼ」おくら めめ
「はるのやまはつゆり」村上 康成

<ぐんぐんタイム>
○「何が入るかなゲーム」 → 何が入るかな
例: ○ちご ○ちねんせ ○
○「あいいうえおうさま」の該当ページを読んでもよう
・わからない言葉の意味を確認
・注意点を確認(とめ・はね・はらい)
・書き順の確認
・指で書く
・目で書く
(・おしりで書く)
○どのお部屋から書くか確かめながら、書いてみよう
○言葉集めをしよう
○「あるないゲーム」をしよう
T「いんこ」 C「あるある」 T「いちご」 C「あるある」
T「さい」 C「あるある」 T「パンダ」 C「ないない」

<わくわくタイム>
○今日の読み聞かせを聞いてどう思ったかな
○外に「春」を探しに出かけてみよう
・タブレット?
○見付けた「春」を発表しよう

<ぐんぐんタイム>
11:30 着替え開始
11:40 廊下に整列(教室内は着席・マスク・帽子)
11:45 「1年の組 おいしい給食 いただきます」
・配る人は固定
・先に「給食当番で配らない人」が自分の分の給食を運ぶ
・次に「当番ではない人」が自分の分の給食を運ぶ

12:05 いただきます
12:35 「ごちそうさまでした」
当番ではない人はゴミ拾い
13:05 ビロティに向けて移動目標

4月27日(火)☞

・元気に挨拶 ・健康なもの(筆箱、お道具)

☞身体表現
○手拍子チームワーク
○お話ししよう

わくわくタイム
せいかつ
学校をもっとたんけんしよう。☞

わくわくタイム
せいかつ
たんけんして見付けたことを発表しよう。☞

ぐんぐんタイム
さんすう
10までの数の読み方や書き方を学習しよう。☞

13時15分頃☞

給食袋☞
生活の教科書☞
算数の教科書・ノート☞

日案

4月27日(火) 14日目

<朝>
・授業参観希望票の回収(締め切り)

<なかよしタイム>
○健康観察(元気調べ)
○小学校の歌(校歌)を歌ってみよう
○わらべうた で遊ぼう(前日の音楽を思い出して)
○境木保種園の先生と遊ぼう!(2名来校)
・9時~9時30分

1組 岡田 純奈(おかだ じゆな) 先生来校	2組 各学級に一任	3組 野崎 彩花(の さき さやか) 先生来校
---------------------------	--------------	----------------------------

・基本的に園の先生に展開は一任
・9時30分に休憩時間を開始(厳守)
→ 岡田先生・野崎先生と児童が交流できるようにする

<ぐんぐんタイム> (9時35分~11時)
○学校探検
・各学級に一任

<ぐんぐんタイム> (11時~11時40分)
○教室の中で3つしかないものを探してみよう

○3の意味や書き表し方を知ろう
・教科書を開いてブロックを置いて3つのものを確認してもよい
○3を練習しよう
・教科書に書き込む
・下書きを教くことを確認する

○教室の中で4つしかないものを探してみよう

○4の意味や書き表し方を知ろう
・教科書を開いてブロックを置いて2つのものを確認してもよい
○4を練習しよう
・教科書に書き込む
・下書きを教くことを確認する

○給食の準備をしよう
11:40 着替え開始
11:50 廊下に整列(教室内は着席・マスク・帽子)
11:55 「1年の組 おいしい給食 いただきます」
12:10 いただきます
12:35 「ごちそうさまでした」
当番ではない人はゴミ拾い
13:05 ビロティに向けて移動目標

4月7日

~

4月28日

「やること」を押さえることが中心となってしまうているな。



昨年度の課題

①「10の姿」を手掛かりとした「日案」の作成

4月11日(月)	日案
・元気に挨拶 ・備なもの(筆箱、お道具)	4月11日(月) 2日目
・ 聞かせ ○身 ○手拍子チー	★「教える」◎「一緒に考える」
しくゲーム	<朝>
なかよし タイム	○ 余裕があれば、自由遊びに少しずつ参加⇒遊びの幅を広げる
1時間目の	○ 個人情報保護封筒の中身は名簿でしっかりと整理を
続き	○ 就学援助の申請はその日のうちに事務職員へ提出
わくわく タイム	★自由遊びの内容とルール
音のあそび隊!	<なかよしタイム>
やりたいことを	○ 健康観察(元気調べ)
選んで遊ぼう。	・どんなことを言えばいいかな
ぐんぐん タイム	「元気です」「眠いです」「お腹が痛いです」など
安全に帰る方法	・リズム打ちをしながら挑戦 ⇒ リズム感 一体感
を話し合っ、準備をしよう。	教師 「〇〇さん」(パン パン)
	子ども 「元気です」(パン パン)
	教師 「〇〇さん」(パン パン)
	子ども 「眠いです」(パン パン)
12時頃	○ 紙芝居 1組「コッコおばさんのおぼけのアイスクリーム」
個人情報保護封筒	2組「ごきげんのわるいコッコさん」
・健康手帳	3組「どんぐりとやまこ」
・ICT承諾書	○ お話しよう 「好きな動物はなあに？」 VTR 参照
上履き	【10の姿との関連】
体育着	(9) 言葉による伝え合い
	(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
	○ 歌「さんば」? 「パブリカ」?
	※ マスクの着用
	○ エピカニクス
	※ 映像を用いながら ※ マスクの着用
	【10の姿との関連】
	(10) 豊かな感性と表現
	<わくわくタイム>
	○ 校庭での自由遊び
	・ 時間を守る ・ 笛が鳴ったら片づけて集合
	・ 仲良く遊ぶ
	砂場・鉄棒(奥村)
	ジャングルジム(綿木)
	全体(相澤)
	<ぐんぐんタイム>
	○ 帰りのしたくをしてみよう
	・ 持ち帰りのお部屋はぜんぶランドセルの中へ
	○ 下校コース・下校方法の確認
	・ キッズは教室待機
	・ 11時40分ビロティへ移動

○ お話しよう 「好きな動物はなあに？」 VTR 参照

【10の姿との関連】

(9) 言葉による伝え合い

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

「園との接続」をより一層意識して、共有・指導ができるのではないか。

形式的な取り組みとならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう



～幼児小の架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点～

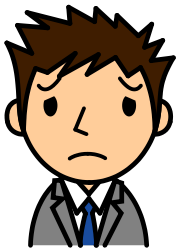
【幼児小の架け橋プログラムの実施に関する視点】

- 幼児小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
- 施設類型・設置者・学校種を越えて、幼児小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう
- 園・学校等外との連携については、書類上はしっかりとまとめられているが具体的な取組が進まないという批判も聞かれます。実質的な話し合いや実践を重視し、そうした具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすい資料を作成していくという意識で取り組みましょう
- ICTやオンライン等の活用により、先生の負担軽減や時間の効率的な使用も図りつつ、効果的に取り組めるようにしましょう
- 全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
- 形式的な取組とならないよう、家庭や地域と一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう

② 児童支援専任と築くスタートカリキュラム

～きっかけ～

専任の立場は、どうしても「何かあったときに対応する」ということが多い。本当は「日ごろから」関係を築けているといいと思うのですが。



児童支援専任



1年生と一緒に遊んで関係を築くのはどう？児童にも保護者にも専任の先生を「みんなの先生」と認識してもらうことで安心して学校に通えるようになるんじゃないかな！

② 児童支援専任と築くスタートカリキュラム



10の姿
×
横浜プログラム



協同性
×
フープ回しリレー

② 児童支援専任と築くスタートカリキュラム



友達が「フラフープ2個でやろう」って言ってやってみたら、もっと楽しくなりました。

全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切にし、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう

～幼保小の架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点～

【幼保小の架け橋プログラムの実施に関する視点】

- 幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
- 施設類型・設置者・学校種を超えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう
- 国・学校等外との連携については、吉野上はしっかりとまとめられているが具体的な取組が進まないという批判も聞かれます。実質的な話し合いや実践を重視し、そうした具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすい書類を作成していくという意識で取り組みましょう
- ICTやオンライン等の活用により、先生の負担軽減や時間の効率的な使用も図りつつ、効果的に取り組めるようにしましょう
- 全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切にし、接続に関する取組を年間計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
- 形式的な取組とならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手册かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう

③園との持続的な交流と子どもの学び



4月下旬～5月上旬
園の先生との学び

9月下旬～10月上旬
「はなのみち」に招待

10月下旬
「はなのみち」のお礼

③園との持続的な交流と子どもの学び

9月下旬～10月上旬
「はなのみち」に招待

5月～
国語「はなのみち」【光村図書】の学習

ぼくたちも「はなのみち」を作っ
て、園の友達を招待しよう!!



③園との持続的な交流と子どもたちの学び

9月下旬～10月上旬
「はなのみち」に招待



③園との持続的な交流と子どもの学び

前は、保育園でこんなことをしたことがないから、**学校ってこんなに楽しいんだって**、勉強するだけじゃなくて**面白いところなんだ**。だから「はなのみち」はできたんだって思います。

(クラスの友達と)二人で「はなのみち」を通ったら、最初はレベル70だったけど、そのあとに**幼児が来たらレベル150**だったから、**すごいな～友達**って思いました。

幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります

～幼保小の架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点～

【幼保小の架け橋プログラムの実施に関する視点】

- 幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
- 施設類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう
- 園・学校等外との連携については、書類上はしっかりとまとめられているが具体的な取組が進まないという批判も聞かれます。実質的な話し合いや実践を重視し、そうした具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすい書類を作成していくという意識で取り組みましょう
- ICTやオンライン等の活用により、先生の負担軽減や時間の効率的な使用も図りつつ、効果的に取り組めるようにしましょう
- 全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
- 形式的な取組とならないよう、家庭や地域と一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう

③園との持続的な交流と子どもたちの学び

1～2月 動画のやり取り



【小学校からの動画】

「知りたいことや心配なことは、
ありますか？」

【保育園からの動画】

「給食のメニューはどんなもので
すか？当番はありますか？」

【幼稚園からの動画】

「勉強は難しいですか？図書館は
ありますか？」

2月 直接交流



④職員間の関係の構築

8月25日(木) 幼保小連携研修

8月25日(木) 幼保小連携研修

1 ねらい

園の先生、小学校職員で接続期の子どもたちについて話し合うことを通して、園での育ちや学びについて理解を深めるとともに、本校のスタートカリキュラムについて理念や取組を共有する。

2 参加者

・本校職員 ・初音丘幼稚園職員 ・境木保育園職員 ・こども青少年局 鈴木 暁範 先生

3 グループ編成

- ①低学年ブロック(コーディネート:阪倉先生)+幼保の先生
- ②中学年ブロック(コーディネート:河野先生)+幼保の先生
- ③高学年ブロック(コーディネート:酒井先生)+幼保の先生
- ④個別ブロック (コーディネート:岩崎先生)+幼保の先生
- ⑤級外ブロック (コーディネート:遠藤先生)+幼保の先生

4 流れ

時間	活動内容	留意点
9:00	1.挨拶と研修の主旨説明(相澤) 2.校長先生のお話	・上記ねらいについて説明
9:05	3.ゲストの紹介(校長先生) ・鈴木 暁範先生 ・初音丘幼稚園の先生方 ・境木保育園の先生方	・前に並んでいたいただき、各施設代表者1名が挨拶
9:10	4.スタートカリキュラムって何だろう ・基本的な理念 ・本校の取組 ・やってみよう「カブラじゃんけん」	【資料】 入学説明会資料「はじめに」 接続期研修 PPT 第1部より抜粋 ・消毒を行った手でカブラを持つ
9:30	5.幼保の育ちや学びって何だろう ・基本的な理念(10の姿について)	【資料】10の姿
9:35	・園の実践を見てみよう(港北幼稚園 VTR)	【資料】港北幼稚園の実践(鈴木先生)
9:45	・ワークショップ① 「園の実践で見られた10の姿を探してみよう」	・ワークシート
9:55	・本校の実践を見てみよう(つながりタイム)	【資料】つながりタイム
10:00	・ワークショップ② 「本校の実践で見られた10の姿を探してみよう」	・ワークシート
10:10	6.こども青少年局 鈴木暁範先生より 「(テーマー任)」	
10:30	7.終わりの言葉(副校長先生) ・振り返りカードの記入	・振り返りカード

【ねらい】

園の先生、小学校職員で接続期の子どもたちについて話し合うことを通して、園での育ちや学びについて理解を深めるとともに、本校のスタートカリキュラムの理念や取組を共有する。

【講師】

こども青少年局 鈴木 暁範 先生

【活動】

- ①カブラじゃんけんをやってみよう
- ②園の実践から「10の姿」を探そう
- ③小学校の実践から「10の姿」を探そう

④職員間の関係の構築

8月25日(木) 幼保小連携研修～園の先生の振り返り～

幼稚園、保育園、小学校の職員が短い時間ではあったが集まって子どもたちの育ちや、学びのために、共通の認識を持つ時間となったと思いました。小学校にバトンを渡し、実際にバトンを受けとった小学校がどのようにスタートしているのか理解をあまりしていなかったので**小学校の先生方が私たちが遊びを通して学び成長して欲しい10の姿に知識のエッセンスを入れることにいろいろ工夫していることがわかり、よい研修の場に参加できたと思いました。ありがとうございました。**

小学校で、知識の学びができるように**私たちは(子どもたちに)たくさんの経験をしてもらい心の学びの土台を豊かなものにしていくことが役割だ**と思っています。豊かな心の土台に小学校で知識のエッセンスをそそいでもらい、さらなる10の姿が育っていくのではと思っています。**そのためにも自分自身も豊かな心を持っていられるよう学びを続けていかななくてはと思っています。**

④職員間の関係の構築

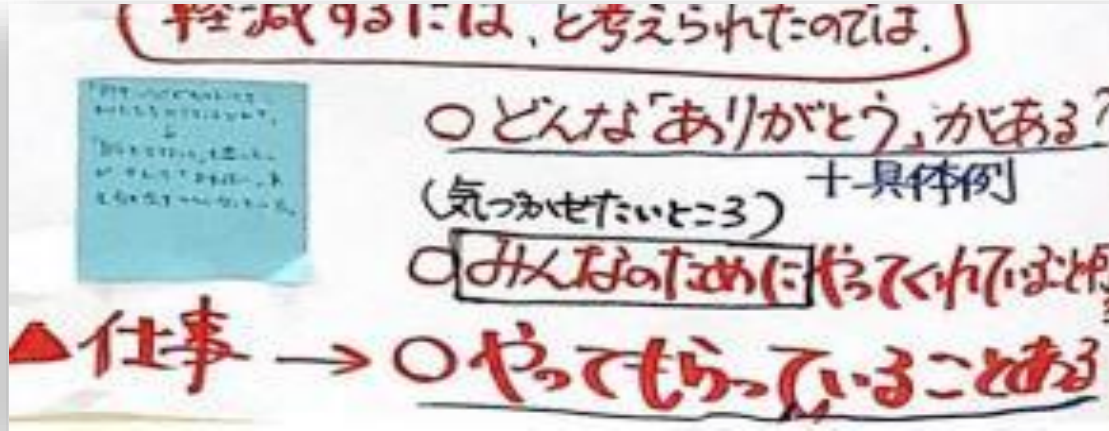
8月25日(木) 幼保小連携研修～小学校の先生の振り返り～

幼保の育ちや学びがわかり、よかったです。1年生のスタートカリキュラムがこれからの学校生活を築いていく基本だとわかりよかったです。子どもの自由な発想を教員が柔軟に対応することが、子どもたちの10の姿が広がっていくことに繋がっていくと思いました。受け止める側の柔軟性を養っていこうと思います。

「子どもの力を信じること」という一点に尽きるな、と思いました。①園の先生方の実践をもっと知ることで「どんな育ちをしてきたのか」がわかり、子どもたちの育ちの見取り方を知ることは大切だと思いました。園の先生方の実践や想いをもっと聞いてみたいなと思いました。②子どもたちを多面的に見ることの大切さを感じました。

④職員間の関係の構築

11月22日(火) 校内授業研究会



12月26日(月) 小学校職員1日保育参観



施設類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に協働して取り組み、発信しましょう

- ～幼保小の架け橋プログラムの実施にあたり、関係者で共有し大切にしていきたい視点～
- 【幼保小の架け橋プログラムの実施に関する視点】
- 幼保小の教育のつながりを意識した活動が、子供の豊かな体験を生み出し、主体的・対話的で深い学びの実現につながります
 - 施設類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて協働して取り組み、発信しましょう
 - 園・学校等外との連携については、書類上はしっかりとまとめられているが具体的な取組が進まないという批判も聞かれます。実質的な話し合いや実践を重視し、そうした具体的な取組を可視化し関係者で共有するために、わかりやすい書類を作成していくという意識で取り組みましょう
 - ICTやオンライン等の活用により、先生の負担軽減や時間の効率的な使用も図りつつ、効果的に取り組めるようにしましょう
 - 全ての先生が関わるプロセスや、組織的な体制づくりを大切に、接続に関する取組を年計画に位置付け、持続的・発展的な取組を目指しましょう
 - 形式的な取組とならないよう、家庭や地域も一緒に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の姿を起点に話し合いを深めましょう

おわりに

「これ、雑草じゃん!」と簡単に言うのではなく、子どもが考えることを大事に授業を作っていることが分かりました。園でも子どもの思いを大切に活動を考えていきたいです。



R3年 校内授業研究会



R4年 何気ない会話

今年は子どもたちが見付けてきた種や、散歩のときに見付けて気になった植物を自分たちで植えたり、植え替えたりして育ててみる活動に挑戦しています。